

構想の背景を知って安心、納得して推進 GIGAスクールを 乗りこなす ②



GIGAスクールの新たな課題を知る！

太田 泉

GIGAスクール構想推進委員会
学校支援部会長

【監修】一般社団法人ICT CONNECT21

GIGAスクール構想推進委員会 情報発信部会

運営中のGIGAスクール構想の情報集積サイト「GIGA HUB WEB」

URL : <https://giga.ictconnect21.jp/> (「GIGAスクール情報」で検索)

GIGAスクールを乗りこなすために

前回、本連載を「――構想の背景を知って安心、納得して推進――GIGAスクールを乗りこなす」として、前代未間のGIGAスクールの構想で整備された端末・ネットワークの操作方法、特長、運用ルールを納得したうえで、先生方が授業や校務で、便利な道具として活用するための情報を連載していくと宣言しました。今回は、GIGAスクールを乗りこなすために「現状」を確認してみましょう。

前代未間のGIGAスクールで準備されたもの

まず、このGIGAスクールで小・中学校に導入されたものを確認しましょう。文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づいて整備されていれば、皆さんの学校には、児童・生徒向け1人1台端末、充電保管庫や大型提示装置、高速ネットワーク環境、1人1アカウントによるクラウド利用などが「一体的に整備」されているはずです。

これらを利用すれば、普通教室での一斉学習・個別学習・協働学習のそれぞれの学びのシーンでICTを使って便利に、スムーズに活用ができるはずです。さらに新型コロナウイルス対策としてオンライン授業や持ち帰り学習、卒

業式や入学式のオンライン中継なども実現できる「はず」、なんです。

少なくとも新学期からは、そうなる「はず」でした。どうですか？皆さんの学校で本当に前述のようなことが実現できますか？

さあスタート、GIGAスクール？

われわれGIGAスクール構想推進委員会では、昨年1年間を通して、機器の調達内容や仕様書の記述、大量端末の設定・ネットワーク環境、クラウド接続、アカウント設定、オンライン授業の導入方法、教職員への研修などを「GIGA HUB WEB」や交流会セミナーなどでご紹介してきました。

そして、これらの支援を整え、前代未間の数量の端末導入を終えて、各市町村の動きを調査しました。

そこで判明したことは、かなりの数の自治体で、GIGAスクール構想で指示された「一体的な整備」が実現できていないという事実でした。実際に稼働を始めた学校から「こんなはずじゃなかった」という悲鳴のような声があがってきています。

GIGA導入後に、あぶりだされた課題

現在、われわれが把握している課題だけで

も次のようなものがあります。

● 教育委員会または学校管理職の反対

教員の経験と勤、紙と鉛筆の従来型授業にこだわる上層部が活用に難色を示す。

● 過剰な規制

生徒指導などを理由に、ICT活用に過剰な規制をかけ、1人1台十クラウドの能力をフル活用できていない。

● 機器・環境整備の不足

財政状況から予算を縮小・圧縮をし過ぎた結果、能力の低い機器、多量な端末負荷に耐えられないネット環境、導入・サポート費用の未計上などが導入後に見つかっている。

● 1人1アカウントの配布の未実施

端末の1人1台は実現したが、実際に使えたのはカメラだけという事例もある。クラウド接続はおろか、アカウントすら配布されていない自治体が多い。

● 教材・教科書コンテンツの不足

補助金以外の費用計上をしていないために活用したい教材がまったく存在しないという声も多く聞かれる。

● 持ち帰り活動への未対応

オンライン授業、持ち帰り学習を認めず、校外への持ち出し禁止をルール化している。

● 研修やサポート体制の欠如

機器費用以外をまったく計上していないため、研修が実行されない。支援員、GIGAサポート体制もつくられていない。

問題の本質はなに

どうしてこのような事態になってしまったのでしょうか。要因は複雑に絡まっています。

- 国の指示の徹底不足
- 自治体側の認知に地域格差がある
- 首長・議会などからの不理解・反対
- 補助金以外の費用を捻出できていない
- 仕様書にサービス内容を記入していない
- 既存業者によるクラウド移行妨害
- コロナ対策とGIGAを切り離している
- コロナ以降の変更指示に対応できない

GIGAを明日につなげる新たな課題

加えて、今後は、文科省が掲げる「誰一人取り残さない個別最適化された学び」に向かつて、われわれには、よりいっそう、全体を最適化された「学校のデジタルトランスフォーメーション」が求められていきます。

今回のGIGAスクール構想では整備予算

が補助されなかったとしても、今後を考えれば、以下のような導入や改革が継続して必要だと思えます。

- 職員の働き方のITによる改革
- 教務と校務のデータの一体化・見える化
- AI等を利用した個別最適化された学習
- クラウド規制の完全撤廃
- 年次更新・セキュリティ対策費用の継続
- GIGA環境の買い替え費用の計上

次の一手に動き出そう

今回はGIGA導入後の現状を確認したのですが、自治体によって状況はさまざまだと思います。

今後GIGAスクール構想推進委員会としては、指摘された課題がクリアできていない自治体には、情報共有や他地域での課題克服事例をお届けする。クリアできている自治体には、その先の活用に必要な研修と授業での事例等をわかりやすく提供する。そして子どもたちの明るい未来と、先生方の働き方の改革のためにNEXTGIGAへのステップをお示しする——それが、学校支援部会の務めだと思っています。